

第6回地区庶務担当理事連絡協議会

と き 平成26年10月22日（水）午後2時30分

△森会長挨拶

森府医会長は、女性閣僚2名の辞任に触れ、国から支給されている政党活動費も税金であり後援会の会費も後援者の生活費から捻出された血税とも言うべきものであるという認識が欠けていると厳しく指摘した。また、円安と物価の上昇により厳しい経済指標が続けば、消費税増税にかなり困難が生じる可能性もあるとして、注視していく意向を示した。

医療の面においては、地域の医療をしっかり守り、国民の健康と生命を守っていくという事が医療界の責務であることを強調。地域医療ビジョンの策定については、二次医療圏単位で地区医が中心となって議論していく必要があるとして、府医と地区医の協力のもと、地域医療再構築のための取組みを進めていく意向を示し、挨拶を締めくくった。

△報告ならびに協議事項

1. セルフメディケーション（最近の動向）について（濱島理事）

セルフメディケーションとは「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」とWHOが定義していることを紹介し、医療費増大抑制を目的として、この概念を政府も推奨する流れにあることを報告。京都府では、京都府薬剤師会が「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業」を実施しており、具体的には、薬剤師による医薬品、サプリメント等の飲み合わせ確認や、自己採血によるHbA1c検査などの事業を行っていることを報告。医療機関への適切な受診勧奨を目的としている一方で、正しくない知識によるセルフメディケーションが行われる可能性があるとして、注意を促した。

森府医会長は、他業種の業務拡大を図る動きがあることや、特に自己採血によるHbA1c検査での感染性廃棄物処理の問題、健康食品、OTC医薬品の販売促進などによる受診抑制で、医療機関には症状が悪化してから受診するというケースも考えられるとして、十分注視していく意向を示した。

2. 最近の中央情勢について（城守理事）

平成26年9月下旬から平成26年10月中旬にかけての社会・医療保険状況について、国家戦略特区、患者申出療養制度、介護報酬改定など、医療を取り巻く多岐にわたる問題について説明した。

3. 京都府医療推進協議会イベントについて（城守理事）

毎年開催している京都府医療推進協議会のイベントを、今年は11月9日（日）、京都市勧業館「みやこめっせ」にて、『みんなで取り組む認知症対策』をテーマに開催することを案内し、多数の参加を呼びかけた。

4. 初心者医療事務講習会について（古家理事）

11月12日（水）から12月1日（月）の間に、初心者医療事務講習会を計8回開講することを報告。受付事務から明細書作成に至るまで幅広く説明を行うことを紹介。10月27日（月）までにハガキまたはFAXで申し込んでいただくよう依頼し、多数の参加を呼びかけた。

5. 京都府子ども健康情報管理システム「ちゃいるす」について（松田理事）

4月からパソコンでのWeb母子手帳のサービスを開始しており、10月時点で650名程度の登録があることを報告。今般、スマートフォンアプリでのサービスを開始したことを報告し、小児予防接種を受けに来られた方などにご紹介いただきたいとして、協力を求めた。

6. 第2回医療安全講演会の開催について（大坪理事）

と き 12月11日（木）午後2時30分～4時30分

と ころ 京都府医師会館3F大会議室

内 容 「医療安全の諸問題」 小林 弘幸氏（順天堂大学）

上記の通り開催することを紹介。講師は昨年と同じであるが、東京都医師会での医療事故調の取り組みに深く関わるなど、幅広く活躍されていることを紹介し、職種を問わず多数の参加を呼びかけた。

7. 学術講演会の今後の予定について（小野理事）

11月に予定している京都府医師会学術講演会を紹介し、多数の参加を呼びかけた。

8. 第29回日本医学会総会2015関西の事前登録について（小野理事）

10月20日時点で7,500名弱の登録があるが、3万名の事前登録を想定しており、現時点で25%に止まっていることを報告。10月末までに登録すると割引や特典を受けられることから、改めて早期登録を呼び掛けた。また、Web登録が難しい方のため、登録用紙の記入による受付もしていることを紹介し、会員への案内を依頼した。